

令和5年度（2023年度） 大学IRコンソーシアム 年次報告書



一般社団法人
大学IRコンソーシアム

はじめに

大学 IR コンソーシアムは、2009 年度文部科学省戦略的大学連携支援事業として採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出 一国公私立 4 大学 IR ネットワーク」（同志社大学・北海道大学・大阪府立大学・甲南大学）において、以下の項目に取り組んできました。

- * 共通の学生調査の開発
- * 学生調査結果を大学間で共有・活用するシステムの開発
- * IR 人材育成のためのワークショップ事業

そして、今日の高等教育における IR の必要性の広がりと共に会員校数が増加し、その社会的責任も次第に大きくなってきたことから、2018 年 4 月、非営利型の一般社団法人として再スタートしています。

弊会は、学生調査分析を軸とする I R 機能の開発を基盤として、I R を通じた会員間での相互評価の結果を学士課程教育の質的向上に結びつける質保証システムの創出と全国規模の I R コミュニティの育成を目的としています。（定款第 3 条）

その目的達成のために、主に実施している事業は以下の通りです。

- (1) 学生調査のマネジメント
- (2) 学生調査を基にした教育成果の測定指標及び方法の開発
- (3) IR 人材育成と教学 IR の啓発活動
- (4) IR 関係情報収集及び情報発信
- (5) 大学連携推進のための広報活動

また、弊会は今年度で法人化から 6 年目に入り、ある程度安定してきた運営状況を踏まえ、上述の定款記載の「目的」を再確認し、加盟校のメリットをより拡大化していくため、今年度を初年度とする 3 か年の中期計画を策定し、計画に基づいた取り組みを開始致しました。

弊会では、年間で取り組んだ活動を本書の通り年次報告書として発行しています。

ご一読いただけましたら幸いです。

また、新規で加入をご希望の大学におかれましては、ぜひご連絡ください。

弊会を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 大学 IR コンソーシアム

目 次

1. 組織体制	4
2. 部会(ワーキンググループ)	4
3. 役員一覧	5
4. 部会委員一覧	5
5. 今年度の主な活動	
(1) 2023 年度 年間活動	6
(2) 部会活動状況	7
(3) イベント実施状況	9
6. 中期計画の進捗について	1 2
7. 情報公開	1 8
8. 会員一覧	1 8

1. 組織体制

総会では、決算の承認、理事・監事の選任、定款の変更等を行っており、理事会では、運営方針・事業計画の検討・承認、規程・規則の改廃、会員の入会承認などを行っています。



2. ワーキンググループ

大学 IR コンソーシアムの具体的な運営は、理事会の下に設置された各部会が行います。

調査・活用部会

- * 学生調査の企画、各種データの活用
- * 学生調査の調査項目に関する検討
- * 測定や分析手法に関する情報収集
- * 学生調査の実施方法にかかる調整
- * 卒業生調査の検討

広報・ワークショップ部会

- * ワークショップの企画、運営
- * 国内外の IR 動向の情報収集
- * IR に関する勉強会の企画、運営
- * 当コンソーシアムや IR 関係の情報発信
- * 新規会員校の募集

IRシステム運用部会

- * システムの運用保守
- * データ登録のスケジュールや方法の検討
- * システムに登録するデータの定義の検討
- * システム操作方法講習会の企画、運営
- * システムでの集計、表示の方針の検討
- * 利用方法に関するマニュアルの作成

中期経営計画検討部会（2022 年 2 月設置）

- * 中期計画の検討、立案
- * 理事会への提言

3. 役員一覧

役 職	氏 名	所 属 機 関
代表理事・会長	福 島 真 司	大 正 大 学
理 事・副 会 長	高 橋 哲 也	大 阪 公 立 大 学
理 事	相 生 芳 晴	上 智 大 学
理 事	相 原 総一郎	芝 浦 工 業 大 学
理 事	伊 藤 奈 賀 子	鹿 児 島 大 学
理 事	江 本 理 恵	北 海 道 大 学
監 事	伊 従 記 章	玉 川 大 学
監 事	梅 本 剛 正	甲 南 大 学

4. 部会委員一覧

	調査・活用部会		広報・ワークショップ部会	
部会長	福島 真司	大正大学	相生 芳晴	上智大学
副部会長	浅賀 圭祐	岩手大学	橋本 智也	大阪公立大学
副部会長	相原 総一郎	芝浦工業大学		
部 会 委 員	伊庭 緑	甲南大学	深堀 太博	甲南大学
	深堀 太博	甲南大学	溝端 祐介	甲南大学
	西本 裕輝	琉球大学	福島 真司	大正大学
	江本 理恵	北海道大学	寺澤 岳生	神田外語大学
	平 知宏	大阪公立大学		
	小山内 幸広	東北工業大学		
	石川 貴彦	名寄市立大学		

	IRシステム運用部会		中期計画検討部会	
部会長	高橋 哲也	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学
副部会長	相生 芳晴	上智大学	寺澤 岳生	神田外語大学
副部会長			浅賀 圭祐	岩手大学
部 会 委 員	深堀 太博	甲南大学	上垣 友香理	大阪公立大学
	溝端 祐介	甲南大学	相生 芳晴	上智大学
	浅賀 圭祐	岩手大学	天野 智水	琉球大学
	石川 貴彦	名寄市立大学	山川 剛史	龍谷大学
			小倉 朋也	金沢星稜大学
			福島 真司	大正大学
			松永 雅弘	長崎国際大学

5. 今年度の主な活動

(1) 2023 年度 年間活動

月	総会・理事会	部会・その他	講演会・講習会、イベント
4 月	第 53 回 理事会	広報・WS 部会 中期計画検討部会 理事選挙	
5 月	メール回議理事会	学生調査データの登録 卒業生調査データの登録 調査・活用部会 システム運用部会 中計部会 部会長会議	
6 月	第 6 回 定時社員総会 第 54 回 理事会	調査・活用部会 広報・WS 部会	第 15 回講演会
7 月	第 55 回 理事会	共通調査データの意見交換会 卒業生調査開始（～翌年 3 月） 学生・卒業生調査集計結果公開 中期計画検討部会	
8 月		IRiS 改修作業実施	
9 月	第 56 回 理事会	調査・活用部会 共通調査データの意見交換会	第 16 回講演会 第 17 回講演会
10 月	第 57 回 理事会	学生調査開始（～12 月） 中計部会 部会長会議	第 18 回講演会 第 19 回講演会
11 月	第 58 回 理事会		第 20 回講演会
12 月	第 59 回 理事会	調査・活用部会開発チーム会議	第 21 回講演会 第 22 回講習会(登録講習会) 第 7 回合同シンポジウム
1 月	第 60 回 理事会		
2 月	第 61 回 理事会	学生調査データの登録 広報・WS 部会 部会長会議 調査・活用部会開発チーム会議 中計部会 部会長会議	
3 月	第 62 回 理事会	学生調査の中間集計結果の公開 調査・活用部会	

(2) 部会活動状況

部会	日時／議題	参加者名（順不同、敬称略）			
第 1 回 調査・活用部会	2023 年 5 月 8 日 15:00～16:25 コンソ調査設問削減について 中期計画の重点課題について	大正大学	福島 真司	甲南大学	伊庭 緑
		岩手大学	浅賀 圭祐	東北工業大学	小山内 幸広
		芝浦工業大学	相原 総一郎	大阪公立大学	平 知宏
		北海道大学	江本 理恵	名寄市立大学	石川 貴彦
第 2 回 調査・活用部会	2023 年 6 月 19 日 13:00～14:33 全国学生調査への対応について 中期計画の重点課題について	大正大学	福島 真司	甲南大学	伊庭 緑
		岩手大学	浅賀 圭祐	甲南大学	深堀 太博
		芝浦工業大学	相原 総一郎	大阪公立大学	平 知宏
		東北工業大学	小山内 幸広	名寄市立大学	石川 貴彦
第 3 回 調査・活用部会	2023 年 9 月 19 日 13:00～14:33 ローデータの提供について 全国学生調査への対応について	大正大学	福島 真司	甲南大学	深堀 太博
		岩手大学	浅賀 圭祐	琉球大学	西本 裕輝
		芝浦工業大学	相原 総一郎	大阪公立大学	平 知宏
		名寄市立大学	石川 貴彦		
調査・活用部会 開発チーム会議	2023 年 12 月 12 日 10:45～11:30 IRiS データを用いた指標の作成 指標を用いた今後の研究計画の立案	芝浦工業大学	相原 総一郎	大阪公立大学	平 知宏
		岩手大学	浅賀 圭祐		
調査・活用部会 開発チーム会議	2024 年 2 月 20 日 13:00～14:30 IRiS データを用いた指標の作成状況 指標を用いた今後の研究計画	芝浦工業大学	相原 総一郎	大阪公立大学	平 知宏
		岩手大学	浅賀 圭祐		
第 4 回 調査・活用部会	2024 年 3 月 8 日 10:30～11:30 指標作成の進捗状況について	大正大学	福島 真司	大阪公立大学	平 知宏
		岩手大学	浅賀 圭祐	東北工業大学	小山内 幸広
		芝浦工業大学	相原 総一郎	名寄市立大学	石川 貴彦
		北海道大学	江本 理恵		
第 1 回 システム運用部会	2023 年 5 月 22 日 14:00～15:30 中期計画の重点課題について	大阪公立大学	高橋 哲也	甲南大学	深堀 太博
		上智大学	相生 芳晴	甲南大学	溝端 祐介
		名寄市立大学	石川 貴彦		

部会	日時／議題	参加者名（順不同、敬称略）			
第 1 回 広報・WS 部会	2023 年 4 月 21 日	上智大学	相生 芳晴	甲南大学	溝端 祐介
	13:00～14:25	大阪公立大学	橋本 智也	大正大学	福島 真司
	中期計画の重点課題について	神田外語大学	寺澤 岳生		
第 2 回 広報・WS 部会	2023 年 6 月 30 日	上智大学	相生 芳晴	神田外語大学	寺澤 岳生
	13:00～14:25	大阪公立大学	橋本 智也	甲南大学	溝端 祐介
	重点課題について				
	部会運営体制（役割分担）について				
広報・WS 部会 部会長会議	2024 年 2 月 15 日	上智大学	相生 芳晴	大阪公立大学	橋本 智也
	13:00～14:20	神田外語大学	寺澤 岳生		
	23 年度活動の振り返りと 24 年度方針				
第 1 回 中期計画検討部会	2023 年 4 月 18 日	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学	上垣 友香理
	14:00～15:30	神田外語大学	寺澤 岳生	岩手大学	浅賀 圭祐
	今年度の活動全般について	上智大学	相生 芳晴	琉球大学	天野 智水
		金沢星稜大学	小倉 朋也	大正大学	福島 真司
		長崎国際大学	松永 雅弘	龍谷大学	山川 剛史
中期計画検討部会 部会長会議	2023 年 5 月 24 日	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学	上垣 友香理
	15:00～16:10	神田外語大学	寺澤 岳生	岩手大学	浅賀 圭祐
	中期計画の重点課題について				
第 2 回 中期計画検討部会	2023 年 7 月 13 日	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学	上垣 友香理
	15:00～16:05	神田外語大学	寺澤 岳生	岩手大学	浅賀 圭祐
	中期計画の重点課題について	上智大学	相生 芳晴	琉球大学	天野 智水
		龍谷大学	山川 剛史	金沢星稜大学	小倉 朋也
		大正大学	福島 真司	長崎国際大学	松永 雅弘
中期計画検討部会 部会長会議	2023 年 10 月 10 日	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学	上垣 友香理
	15:00～16:20	神田外語大学	寺澤 岳生	岩手大学	浅賀 圭祐
	中期計画の重点課題について				
中期計画検討部会 部会長会議	2024 年 2 月 21 日	大阪公立大学	畑野 快	大阪公立大学	上垣 友香理
	15:00～16:00	神田外語大学	寺澤 岳生	岩手大学	浅賀 圭祐
	23 年度活動の振り返りと 24 年度方針				

(3) イベント実施状況

①第 15 回講演会（ハイフレックス形式＜対面会場は、上智大学＞）

開催日時 : 2023 年 6 月 22 日（木） 15:40 から 16:30
講 師 : 上智大学 IR 推進室 室長 相生 芳晴 様
内 容 : 「ChatGPT でアンケート設計をしてみる」
参 加 者 : 27 人（会場）／43 人（Zoom） 計 70 人

②第 16 回講演会（Zoom）

開催日時 : 2023 年 9 月 11 日（月） 14:00 から 14:30
講 師 : 上智大学 IR 推進室 室長 相生 芳晴 様
内 容 : IRiS 改修に伴う「教育の質に係る客観的指標」への対応について
参 加 者 : 51 人

③第 17 回講演会（Zoom）

開催日時 : : 2023 年 9 月 20 日（水） 13:00 から 15:10
講師・内容:

(1) 名寄市立大学 石川先生のご講演

演題: 教学 IR 情報を多角的に捉えるためのグラフィックアウトと解説付与の方法
(2023 年度版) ～IRiS の活用を前提として～

(2) 大阪公立大学 橋本 智也 先生のご講演

演題: 初級者のための IR 入門 (2023 年度版)
～考え方と実践事例から自大学での応用可能性を考える～

参 加 者 : 56 名

④第 18 回講演会（Zoom）

開催日時 : 2023 年 10 月 11 日（水） 09:30 から 11:30
講 師 : 上智大学 IR 推進室 室長 相生 芳晴 様
内 容 : 「Excel によるアンケートデータの可視化」

(1) Excel 基本テクニックとデータ管理の考え方（講演）

(2) Web アンケート調査 設計のポイント（講演）

(3) ピボットテーブル、ピボットグラフ、スライサー機能を 活用した集計・
可視化（実習）

(4) Excel によるダッシュボード作成（実習）・ 加重平均の差を比較する
(時間があれば)

参 加 者 : 53 人

⑤第 19 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2023 年 10 月 23 日 (月) 13:00 から 14:50

講師・内容:

(1)大学 IR コンソーシアム事務局 林 裕子

テーマ:基礎集計結果の作り方

(2)神田外語大学 学長室 IR 推進チーム 寺澤 岳生 様

テーマ:簡単にできる!学生アンケート結果の散布図を使った分析事例
～IRiS からダウンロードしたデータの活用～

(3)上智大学 IR 推進室 室長 相生 芳晴 様

テーマ:上智大学の取り組み事例

参加者 : 37 人

⑥第 20 回帝塚山学院大学様との共催講演会 (Zoom)

開催日時 : 2023 年 11 月 14 日 (火) 13:00 から 14:35

講師・内容:

(1)帝塚山学院大学 教学センター 企画課 (兼 教学課) 福西 佑介 様

帝塚山学院大学 総務部 ICT 課 (兼 教学センター 企画課) 平井 伸哉 様

テーマ:小規模大学におけるアセスメント・プランに基づくアンケートの分析・活用

(2)淑徳大学 学長室 課長 荒木 俊博 様

テーマ:認証評価における IR の役割と活用

参加者 : 52 人

⑦第 21 回講演会 (Zoom)

開催日時 : 2023 年 12 月 4 日 (月) 13:00 から 14:10

講師・内容:

(1) 大学 IR コンソーシアム事務局 林 裕子

テーマ:「学生生活の充実度」はどこからくるのか ～IRiS クロス集計を使って～

(2) NEC ソリューションイノベータ株式会社 関西支社

シニアプロフェッショナル 榎本 宏 様

テーマ:大学業務の AI 適用事例と課題について ～生成 AI 情報も添えて～

参加者 : 29 人

⑧第 22 回講習会 (Zoom)

開催日時 : 2023 年 12 月 11 日 (月) 13:00 から 14:00

講師 : 大学 IR コンソーシアム事務局 林 裕子

内容 : IRChecker、暗号化ツール等の使い方を中心にデータ登録までの手順を説明

参加者 : 22 人

⑨第6回合同シンポジウム（ハイフレックス形式＜対面会場は、大正大学＞）

開催日時：2023年12月23日（土）13時から17時

※前日の22日は「第17回EMIR勉強会」の開催日

開催団体：一般社団法人 大学IRコンソーシアム

株式会社ベネッセ i-キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所

大正大学エンrollment・マネジメント研究所

テーマ：「IRを取り巻く環境を読み解く」

プログラム：

・開催者挨拶 13:00～

大学IRコンソーシアム 代表理事/会長 福島 真司 氏

・講演 13:05～

①講師：株式会社ベネッセ i-キャリア 大社接続事業本部 本部長 風間 直樹 氏

演題：『学修者本位』の『学修成果の可視化』とは ～全国データからの考察～

②講師：大学IRコンソーシアム 副会長／公立大学法人大阪 理事／大阪公立大学 副学長

高橋 哲也 氏

演題：大学IRコンソーシアム調査から見る学修成果の可視化の可能性

③講師：大正大学 EM 研究所 副所長代行 日下田 岳史 氏

演題：パネルデータに見る大学生の汎用的能力の変化

～外部アセスメントテストを活用した私立A大学の事例研究～

④講師：福岡工業大学 情報基盤センター 学術支援機構長付担当部長 藤原 昭二 氏

演題：データドリブン型FDと学生ケア

・講演者によるオープンディスカッション 16:05～

モデレーター：学校法人上智学院 IR推進室長 相生 芳晴 氏

参加者：31人（会場）／83人（Zoom） 計114人

6. 中期計画の進捗について

弊会は今年度で法人化から 6 年目に入り、ある程度安定してきた運営状況を踏まえ、加盟校のメリットをより拡大化していくため、2023 年度を初年度とする 3 か年の中期計画を策定し、計画に基づいた取り組みを開始致しました。

中期計画は、2021 年 11 月に設置された中期計画検討部会が中心となってブレインストーミングや全会員を対象にしたアンケート（実施期間：7 月 6 日から 7 月 20 日まで）などを基に次の 5 つの重点課題を抽出しました。

■重点課題 1 コンソーシアムのあり方についての検討

- ・コンソーシアムの目的の再確認
- ・多様化する会員特性やニーズと全会員一律の会費設定、一律の権限付与の是非
- ・文部科学省や関連する他機関との相乗効果的な連携の検討

■重点課題 2 データの活用方法の開発

- ・ベンチマーク指標の開発
- ・効果的な相互比較の方法の開発

■重点課題 3 IR システムの改修

- ・現行 IRiS の利用拡大の推進（低い利用率の解消）
- ・活用ガイドラインの検討

■重点課題 4 現会員間の情報共有・意見交換の場の拡充

- ・調査結果の活用、他大学との共有に関する場の設定
- ・交流の場の充実

■重点課題 5 新規会員獲得に向けた広報の拡充

- ・活動報告資料の充実の検討（パンフレット、ホームページ、年次報告書等）
- ・広報活動充実の検討（学会や研究会等の企業ブース出展・アピール、プレスリリース等）

それぞれの重点課題は、具体的な取組みが計画番号として記されています。

各計画番号の取組みの進捗状況については、次ページ以降をご参照下さい。

中期計画検討部会（重点課題1 コンソーシアムのあり方についての検討）

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
コンソーシアム全体の活動のモニタリ ン グ 本会の目的を再確認するとともに、目的に沿った活動ができているかどうかをモニタリングし、必要に応じて目的・活動内容を見直す。	1	コンソーシアムの目的に沿った活動のあり方について、現状の部会の活動を踏まえた上で、検討する。必要に応じて目的・活動内容を見直す。	コンソーシアムの目的に沿った活動のあり方について、現状の部会の活動を踏まえた上で、検討する。必要に応じて目的・活動内容を見直す。	コンソーシアムの目的に沿った活動のあり方について、現状の部会の活動を踏まえた上で、検討する。必要に応じて目的・活動内容を見直す。
		現状についてモニタリングする。	現状についてモニタリングする。	現状についてモニタリングする。
		(1)本会の目的を再確認し、当会の目的として「学修成果の可視化」を挙げているが、現状では成果測定に課題があるのではないかと問題提起があった。 (2)委員校は成果の可視化にどの設問を利用しているかの調査、協議を実施⇒問7を成果指標として利用している会員校が多いようである。 (3)現行設問をプロセス測定/成果測定/その他に分類した⇒プロセス測定：80問、成果測定：12問、どちらとも言える：20問、その他：18問という結果となり、この結果からも成果の可視化について改善の余地があると考えられた。 (4)改善策の一つとして学士力を例に①技能（汎用的技能）や能力（態度、志向性）の測定方法の検討し、②成果測定するための新たな調査や時期の検討を行い、次のような改善策を立案した。 ・成果測定用として、新設問を開発し、入学時（新設）と4年生でプレ・ポストの変化を測定する。また、中間測定として2年次にも実施する。 ・現状のコンソ設問は、1年次と3年次にプロセス測定用の調査として実施する。 (5)前項の改善策案は、推進可否を含め2024年度に理事会に諮る。		
会費と会員権限の検討 現状では各会員に対し学生数やIRシステムの利用頻度に関わらず一律の会費設定・権限付与が行われている。会員の多様性やニーズの違いを踏まえた会費設定・権限付与のあり方について検討する。	2	会費・会員権限の基準（e.g., サービス、学生数）について検討を行う。	作成した修正案について、会員にニーズ調査を行う。	会費・会員権限の変更の是非について決定する。
		会費・会員権限修正案を策定する。	調査の結果についてまとめ、部会で報告する。	会費・会員権限の変更の是非について決定する。
		(1)会費見直しの課題⇒①非営利型一般社団法人を維持するのであれば、会費がサービスの対価とならないようにする必要がある。②会費の決定機関が総会であるため試行的な変更や頻繁な変更は難しい。 (2)権限付与の検討として次の案を検討⇒①会員を大学規模や調査数、相互比較参加有無などで類別し、類別に定額とする案、②IRIS利用時間やデータ量などで会費を従量制とする案 (3)非営利型一般社団法人を維持することや会費を見直した場合の収支予想などを考慮すると、会費・会員権限修正案を策定することは非常に困難であるとの認識に至り、修正案の策定は見送ることとした。 (4)左記の「取り組みの概要」を見直すことも含めて理事会に諮る。		
文部科学省、他機関との連携方策の検討 我が国において学生調査を実施・分析している主体は様々なレベルで存在する。他機関との連携を通して本会の発展の方向性を検討する。	3	文部科学省、IRに関する他機関、コンソーシアムと連携することの意義と連携先と方策について検討する。	連携することの意義と利点についてまとめ、連携候補先と協議を開始する。	連携先との合同イベントを開催する。
		連携先を選定する。	協議の進捗をまとめる。	合同イベントを開催する。
		(1)具体的な団体名を挙げ、具体的な連携方法や連携案などの意見交換を実施した。 (2)連携候補団体との人間関係構築、双方にメリットのある交流の一環として次のことを実施。 ①MJIRのイベントに参加、出展 ②大学基準協会に弊社イベントでの講演依頼 (3)具体的な連携先の選定には至っていない。		

調査・活用部会（重点課題2 データの活用方法の開発）

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
新旧調査票に対するベンチマーク指標の策定および研究 100以上ある調査項目の回答結果を一度に理解・把握することはあまり容易ではない。そこで、複数の項目の一次結合からなる指標を作成し、回答結果の概形を容易に理解・把握できるようにする。指標の数は10～15程度を想定している。また、作成されたベンチマーク指標に関し、過去データを用いた分析・研究を進める。	4	<u>旧調査票に対するベンチマーク指標案の作成</u> 過去データの探索的分析や内容の妥当性の検討などにより、指標の作成方法について検討し、指標案を作成する。	①旧調査票に対するベンチマーク指標案の検証 作成された指標案の妥当性および有効性を検証する。 ②ベンチマーク指標に関する研究 過去データを用いた研究を行う。 ③新調査票に対するベンチマーク指標案の作成 旧調査票に対するベンチマーク指標を参考にしながら、2023年調査のデータを用いた探索的分析や内容の妥当性の検討などにより、指標の作成方法について検討し、指標案を作成する。	①新調査票に対するベンチマーク指標案の検証 作成された指標案の妥当性および有効性を検証する。 ②ベンチマーク指標に関する研究（継続） 計画4、5の取り組みの成果も踏まえ研究を継続するとともに、成果をまとめ、公開する。 ③システム改修に向けた検討 IRシステム部会と連携し、システム改修の検討を行う。
		ベンチマーク指標案の有無（無しの場合は検討の進捗状況）	①ベンチマーク指標案の検証完了 ②研究の進捗状況 ③ベンチマーク指標案の有無（無しの場合は検討の進捗状況）	①ベンチマーク指標案の検証完了 ②研究の進捗状況および成果公開の有無 ③検討の進捗状況
		(1)部会内に開発チームを設置し、計画番号4、5、6に取り組むことを決定。 (2)指標案検討着手と並行して、指標案検討に共通調査データを利用することを要望し、2023年10月に理事会の承認を得る。 (3)11月、開発チームに共通調査データが提供され、指標案作成を推進。 2種類の指標案を作成済み ①プランA：因子分析を利用して指標を作成 ②プランB：内容的妥当性から指標を作成 (4)2024年4月に理事会に状況報告を経て、6月の総会で開発状況を報告する予定。		
データの相互比較方法の開発 データの大学間相互比較は本会の最大の利点の一つだが、現状の比較方法では基礎集計（各選択肢の回答割合）あるいは平均値の比較という簡単なものに留まる。そこで、より効果的な相互比較方法の開発を行う。	5	<u>相互比較方法の試案の開発</u> 過去データを用い、試案の検討・開発を行う。	<u>相互比較方法の試案の検証</u> 過去データを用い、開発された試案の妥当性および有効性を検証する。	<u>ベンチマーク指標の相互比較（計画4-②と同時に実施）</u> 計画4で作成されたベンチマークに対し相互比較を行う。
		試案の有無	検証の完了	計画4-②に含まれる
		(1)計画番号4の(1)、(2)、(3)、(4)と同じ。 (2)ヒストグラムを用い、大学を単位として全体の分布上で自大学がどこに位置するのかを定量的に読み取ることができる相互比較方法の試案作成済。		
大学クラスタリングの開発 より効果的な大学間相互比較を実現するため、データに基づくサブグループの開発を行う。	6	<u>クラスタリング基準案の作成</u> 過去データに基づき、各種特色に応じたクラスタリング手法の検討およびクラスタリング基準案の作成を行う	<u>クラスタリング基準案の検証</u> 作成されたクラスタリング基準案の妥当性および有効性を検証する。	<u>大学クラスタリングに基づく相互比較（計画4-②と同時に実施）</u> 計画4で作成されたベンチマークを用い、開発された大学クラスタリングに基づく相互比較を行う。
		クラスタリング基準案の有無（無しの場合は検討の進捗状況）	①クラスタリング基準案の検証完了	計画4-②に含まれる
		(1)計画番号4の(1)、(2)、(3)、(4)と同じ。 (2)データ整理として、19年度1年生調査を対象に各質問(授業経験、学習態度、活動時間、能力変化、英語、満足度など)に対する反応強度の大学分布を可視化し、特異的反応の有無や、それを基に分類した場合に、どのような意味付けが可能かを検討などを行い、基本的なクラスタリング基準案作成済。		

システム運用部会（重点課題3 IRシステムの改善）

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
現行IRiSの利用拡大 利用状況の低い現状を踏まえ、 現行システムでどんなことができるのかを 積極的に発信する。 また、 ・利用者により使ってもらえるシステム ・利用者が使えるシステム にするために、基本的な活用パターンを開 発する。（システム開発ではありません）	7	<u>IRiS利用効果の積極的発信（継続）</u> 本活動は22年度から推進。23年度以降も継続。	<u>IRiS利用効果の積極的発信（継続）</u>	<u>IRiS利用効果の積極的発信（継続）</u>
		次の内、2つ ・IRiS活用講習会開催1回 ・IRiS活用の動画コンテンツ作成（1つ） ・利用例集の作成（1利用例）	次の内、2つ ・IRiS活用講習会開催1回 ・IRiS活用の動画コンテンツ作成（1つ） ・利用例集の作成（2利用例）	次の内、2つ ・IRiS活用講習会開催1回 ・IRiS活用の動画コンテンツ作成（1つ） ・利用例集の作成（2利用例）
		・IRiS活用講習会を4講演実施➡9/11：上智大 相生様、9/20：名寄市立大 石川先生、10/11：上智大 相生様/事務局 林、12/11：事務局 林 ・IRiS活用の動画コンテンツ3タイトル作成（但し、まだ公開していない）		
	8	<u>基本的活用パターンの開発</u> パターン化された活用方法を開発し、簡単な操作で 結果が表示でき、印刷すれば報告資料に使えるよう にする。	<u>基本的活用パターンの開発（継続）</u>	<u>基本的活用パターンの開発（継続）</u>
		・2パターンの開発	・2パターンの開発	・2パターンの開発
6本縦棒グラフ比較テンプレートを作成し、5/13にIRiSお知らせ欄に掲載済。名寄市立大 石川先生の講演内容に基づき、石川先生と事務局で共同作成した。				
現行IRiSの機能追加、環境改善 全国学生調査への対応（含：設問削減）を 除く、通常のIRiSの機能追加や環境改善に ついての取組み	9	<u>機能追加の検討</u> ・全国学生調査連携対応 ・他の取組から生じる機能ニーズの対応検討 （グラフ機能、ダッシュボードの追加等）	<u>機能追加の検討（継続）</u> ・全国学生調査連携対応 ・他の取組から生じる機能ニーズの対応検討	<u>機能追加の検討（継続）</u> 過去2年の取組内容の検証
		検討実施の有無、機能追加/改善の有無	検討実施の有無、機能追加/改善の有無	
		IRiS機能改善として、相互比較ダッシュボードの折れ線グラフのラベル表示およびexcelダウンロードデータへの質問内容の追加を8/10に実施した。 この改修費用は無償で実施して頂いた。（保守管理費用内で実施して頂いた）		
	10	<u>運用費用・保守費用削減を目指す</u> 運用環境の見直しなどを検討し、運用費用の削減を 目指す	<u>運用費用・保守費用削減を目指す（継続）</u>	
		2022年度比で5%の削減（約29万円）	2023年度比で5%の削減	
		現状では、「費用削減」ではなく「保守費内での改修」を要請している状況		
	11	<u>HPでの公開情報の充実（ex.tableau連携）</u> 見せ方、公開範囲、結果の動的表示など	<u>HPでの公開情報の充実（継続）</u> 見せ方、公開範囲、結果の動的表示など	<u>HPでの公開情報の充実（継続）</u> 見せ方、公開範囲、結果の動的表示など
		動的な集計結果の表示	公開範囲（公開情報）の追加	公開範囲（公開情報）の追加
		この計画番号については未着手である。		
	IRiS利用状況のモニタリング （取組効果の指標として）	12	ログ分析	ログ分析
ログイン数、利用グラフランキングなど			ログイン数、利用グラフランキングなど	ログイン数、利用グラフランキングなど
次の通りログ取得済。1月から6月まで、7月から12月までの期間で採取。年度比較は仮登録の2月から集計公表の7月までで行う。				

広報・WS部会（重点課題4 現会員間の情報共有・意見交換の場の拡充）

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度
講演会／講習会の充実 （会員向け取組） 以前から実施しており、最近Zoom開催の手軽さもあって比較的活発化しているが、講師は会員に限定している。有償も許容した外部講師による有用・有益な講演/講習会を企画し開催する。従来企画も含めて、内容によっては「受講修了証」を発行する。 【本欄に不記載の内容】 ・従来企画の講演会/講習会 ・IRIS活用関係はシステム運用部に記載	13	外部講師による講演会の企画検討と試行開催	1年目の継続	2年目の継続
		試行開催1回	開催1回	開催1回
		・11/14、会員向け講演会としては初めて外部講師として淑徳大学 荒木さまに講演して頂いた。 また、この講演会は初めて会員と共催で実施した。 ・中期計画に基づき毎年度外部講師1名に講演して頂くように努めるが、必ずしも「外部講師」に拘る訳ではなく会員の関心がある内容とすることに注力する。 （参考）23年度の会員向け講演会/講習会は計8回13講演実施。（過去最多。詳しくは後述の広報・WS部会の報告を参照）		
交流の場の充実 （会員向け取組） 講演テーマの希望上位に「他大学での事例」があるが、その様な機会が少ないことの証左である。今までもワークショップなどを開催し、課題や対策の共有に務めたが、更に発展充実させることとコロナによる社会変化にも適応した「交流の場」の開発などを進める。 ※：計画番号14の新WSについて コロナ前に実施していたWSを旧WSとし、リモートが定着しつつある状況を踏まえて新しく企画するWSのことを新WSとした。新WSは必ずしも＝ハイブリッドということではなく、Zoom開催でどれだけ旧WSに近いことができるかを企画開発したものを言う。	14	<u>Zoomでの新WS※開催の試行</u> コロナでリモートでのイベント開催が定着している状況を踏まえ、Zoomでいかに「リアルWS」に近い開催ができるかを検討し試行する。（ハイブリッドも含め） 必要に応じて「受講修了証」を発行する。	<u>新WSを通常開催</u>	<u>新WSを通常開催</u>
		試行開催1回	通常開催1回	通常開催1回
		この計画番号については未着手である。		
	15	<u>コンソ内に「部活動」的な集まりを新規に開設する。</u> 先ず、「部」単位（ex.規模、地域、専門分野、設置区分、課題、学内報告など）の検討を行い、モデル部を1～2開設し、運用方法などを検証する。	<u>モデル部を検証改善し、部の増設を図る。</u>	<u>各部の自律的運用を図る。</u> 各部の運営に事務局はもちろん協力するが、活動の内容については自律を図る。
		モデル部の新規開設1～2部	1～2部の増設（合計2～4部）	自律運営の部1～2部
		・「部活動」的な集まりの名称は、〇〇ワーキンググループ（〇〇WG）とした。 ・WGのテーマ検討➡①分析方法や報告書作成のWG、②次の類別のWG（規模、地域、専門分野、設置区分、課題など）、③IRやITの初心者のWG ・WGの開催、実施方法の検討➡Zoom、Slack ・上述のように種々の検討を行ったが、具体的な活動（WGの発足、開催）には至らず。		

広報・WS部会（重点課題5 新規会員獲得に向けた広報の拡充）

取り組みの概要	計画 番号	2023年度	2024年度	2025年度	
広報の充実 （主に外部向け） 外部を意識した広報活動の充実を図る。 新規会員獲得については別枠で取組む。	16	<u>HP内容の改善と充実</u> 2020年9月の新HP公開以降はイベント追記程度の更新であったが、掲載内容の改善（ex.公開基礎集計の見直し→内容、動的見せ方等）やFAQの充実、動画コンテンツ、訪問者別（会員/非会員、加入検討者）コンテンツの企画検討を行う。	<u>1年目の検証結果に基づく改善の実施</u>	<u>2年目の検証結果に基づく改善の実施</u>	
		上述した具体策の内、2点を実施 HPのアクセスログ（数値は未定）	具体策の内、2点を実施 HPのアクセスログ（数値は未定）	具体策の内、1点を実施 HPのアクセスログ（数値は未定）	
		（この計画番号は11と内容的に重複している）この計画番号については未着手である。			
		17	<u>HP以外の広報ツールの改善と充実</u> パンフ、リーフ、イベントへの広告、年次報告書、Wikipediaなどを検討し充実を図る。	<u>HP以外の広報ツールの改善と充実（継続）</u>	<u>HP以外の広報ツールの改善と充実（継続）</u>
	検討した具体策の実施率（個数の）：6割		1年目に検討した具体策の実施率（個数の）：完了	2年目に検討した具体策の実施率（個数の）：完了	
	・年次報告書を作成しHPへ掲載した。 ・イベントへの広告：①大学教育学会(11/11-12)への広告 ②MJIR(11/17-19)へのブース出店および広告				
	18	<u>活動内容の広報</u> 従来実施していなかった当会活動に関する広報に取組む。まずは、プレスリリースの活用や全国学生調査との連携に関する広報などに取り組む。	<u>活動内容の広報（継続）</u>	<u>活動内容の広報（継続）</u>	
		新規広報1件	新規広報1件	新規広報1件	
		この計画番号については未着手である。			
	新規会員の獲得	19	<u>対象へのアプローチの強化</u> ・非会員への情報発信の強化 HPに会員の声を掲載「入ってよかった」等 非会員向けイベント企画 ・入会検討者への情報強化 専用広報ツール作成、HPに専用コーナ	1年目の結果検証、施策検討と実施	2年目の結果検証、施策検討と実施
			シェア率：「クープマンの目標値」の市場認知シェアである10.9%(85校)を3年間で達成することを目指し、毎年7校増（±で）を目標とする。 施策実施状況：上記の内、1～2個実施	会員数：毎年7校増（±で）	会員数：毎年7校増（±で） ※3年目終了時に会員数85校
			・新規会員獲得を目的としたイベントは実施できていない。 ・入会検討用にIRIS紹介動画1タイトルを作成したが、HPなどへの公開は未実施。 ・Zoomによる個別入会説明会を5大学に対して実施。内、2大学が入会。 ・新規入会2校、退会校2校で増減はプラスマイナス0であった。		

7. 情報公開

- (1) 「学生調査 2023 年度」基礎集計結果の報告資料を一般公開（2024 年 8 月 19 日）
大学 IR コンソーシアムが企画し、大学 IR コンソーシアム会員校である各大学が
2023 年度の後期（秋学期）期間中に実施した学生調査です。
(1 年生 35,561 件、上級生 44,286 件)
- (2) 「卒業生調査 2023 年度」基礎集計結果の報告資料を一般公開（2024 年 8 月 19 日）
大学 IR コンソーシアムが企画し、大学 IR コンソーシアム会員校である各大学が
2023 年度中に実施した卒業生調査です。
(4,087 件)

8. 会員一覧 (<https://irnw.jp/about-us#cont06>)

大学 IR コンソーシアムには、全国の国公私立 64 大学が加盟しています（国立 9 大学、
公立 10 大学、私立 45 大学）。 2024（令和 6）年 5 月 13 日現在

正会員

あ行

愛知工業大学 大阪工業大学 会津大学 大阪公立大学 秋田県立大学
大阪国際大学 麻布大学 大阪産業大学 大分大学

か行

鹿児島大学 京都ノートルダム女子大学 神戸親和大学 活水女子大学
杏林大学 関西国際大学 久留米工業大学 神田外語大学 皇學館大学
岐阜医療科学大学 甲南大学

さ行

作新学院大学 下関市立大学 四国大学 上智大学 静岡大学
情報経営イノベーション専門職大学 芝浦工業大学 成蹊大学 島根県立大学
成城大学

た行

大正大学 東京家政大学 徳島大学 高松大学 東京電機大学 玉川大学
東京薬科大学 千葉県立保健医療大学 東北工業大学 帝塚山学院大学
東洋学園大学

な行

長崎国際大学 新見公立大学 長野県立大学 日本獣医生命科学大学 長野大学
長浜バイオ大学 名寄市立大学

は行

広島工業大学 北海道科学大学 福井大学 福岡工業大学 藤女子大学
北海道大学

ま行

松山大学 武蔵大学 室蘭工業大学 目白大学

や行

ら行

琉球大学 龍谷大学 流通経済大学

わ行

和歌山大学 和光大学 和洋女子大学

賛助会員（入会順）

富士通 Japan 株式会社 スキャネット株式会社 株式会社ベネッセ i キャリア
ウイングアーク 1st 株式会社 九州 NS ソリューションズ株式会社
NEC ソリューションイノベータ株式会社
株式会社タイムインターメディア（2024 年 10 月 10 入会）

特別会員（入会順、敬称略）

浅賀 圭祐（岩手大学）

令和 5 年度（2023 年度）大学 IR コンソーシアム 年次報告書

2024 年 6 月 1 日発行

【発行】 一般社団法人 大学 IR コンソーシアム

【編集】 広報ワークショップ部会

〒534-0024

大阪市都島区東野田町 5 丁目 2 番 23 号

京橋セントラルビル 801 号室

TEL 06-4397-4188

URL <https://irnw.jp/>